

なかほこまさといせき
17. 中保小政戸遺跡

所在地：大野市中保

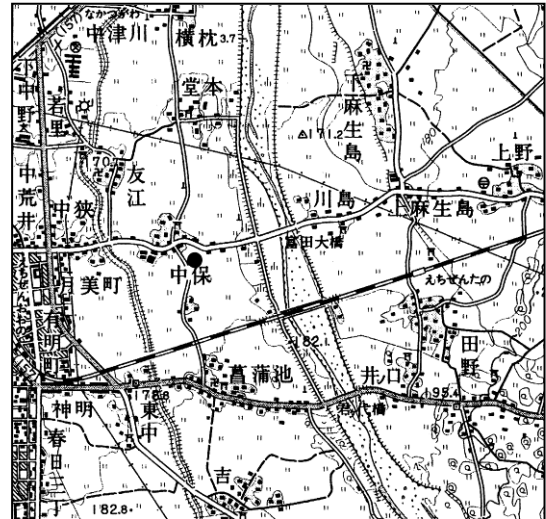
調査原因：一般国道 157 号道路改良工事

調査期間：平成 22 年 11 月 1 日～11 月 30 日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：650 m²

時代：奈良・平安時代、近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 遺跡は、東を真名川、西を清滝川に挟まれた微高地上に立地します。土層堆積は、水田土直下に遺物を含む黒褐色土があり、その下は遺構面の基盤である黄褐色土から砂礫層へと移行します。今回初めて本格的な発掘調査を行いました。耕作や道路改良工事による削平のため、遺構の残りは良好ではありませんでした。

遺構 掘立柱建物 (SB) 2 棟、竪穴住居 (SI) 3 棟が主な遺構です。掘立柱建物は調査区の中央にまとまり、いずれも南北方向に棟を持ちます。SB01 は円形の柱穴で桁行 3 間×梁間 2 間の側柱建物です。片側の検出に留まった SB02 は隅丸方形の柱穴で桁行 3 間です。竪穴住居も南北方向に棟を持ちます。SI01・02 東南部には炉跡と思われる焼土が認められました。SI01 の焼土直上では、須恵器と土師器がまとまった状態で出土しました。SI02 は東西 4.4m、南北 3.7m を測り、住居内の周囲に浅い溝を巡らせています。SI03 は耕作による削平のため深さ約 5 cm を測るにすぎませんが、SI01 同様、須恵器と土師器がまとまった状態で出土しました。

遺物 遺物は天箱 3 箱分と少ないですが、須恵器は坏・皿類、土師器は甕などが多く、8 世紀代が中心です。

まとめ 調査面積が狭いことに加えて後世の削平が激しいため、遺跡の全体像は不明な点が多いですが、古代に南北方向に棟を持つ掘立柱建物や竪穴住居により構成される集落が整然と計画的に営まれていたと考えられます。(木村孝一郎)



調査区北部全景（南から）



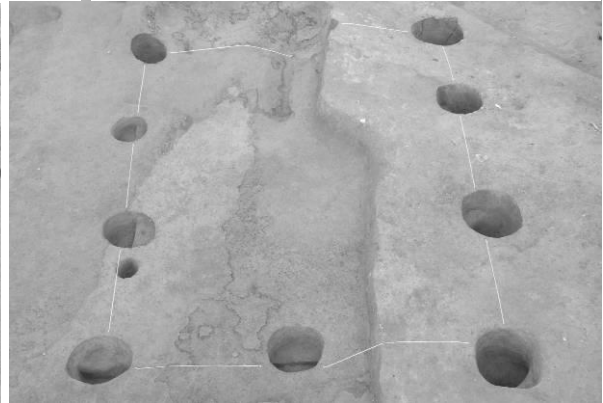
竪穴住居：SI01（東から）



SI01 遺物出土状況（南から）



竪穴住居：SI02（南から）



掘立柱建物：SB01（南から）



竪穴住居：SI03（西から）



掘立柱建物：SB02（東から）